



日本における最初の矯正歯科技工士誕生と 日本矯正歯科技工士研究会設立の経緯

東海歯科医療専門学校 矯正歯科技工学主任講師
横井 欣弘

彼は昭和34年(1959)東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校実習科の一回生として卒業した。実習科在籍中から矯正技工に興味を持っていた彼は、卒業後M生命保険会社の歯科診療室に勤務するが、その傍ら夜間は矯正治療を行っている京橋歯科診療所(昭和35年開設・現在・高橋矯正歯科診療所)に出向き歯科医師の神山光男(故人)、矢野由人(現・渋谷・矢野矯正歯科クリニック会長)両先生から矯正技工の指導を受け修得していた。

昭和37年東京医科歯科大学教授の高橋新次郎先生が同大を退官され、上記の京橋歯科診療所に院長として迎えられたのである。

彼というのは、昭和37年京橋歯科診療所(現在・高橋矯正歯科診療所)において、我が国最初の矯正歯科専門の技工士となった坪井恭一氏(平成15年10月逝去・享年67才)のことである。高橋新次郎先生は昭和35年(1960)から2年間、東医歯大・歯科技工士学校の2代目の校長を務められていたが、このとき先生は将来における矯正歯科専門の技工士の養成について考えられていたというから、高橋先生との出会いは坪井氏にとって、きわめて幸運なことであった。

さて、日本矯正歯科技工研究会の設立は昭和48年(1973)9月25日のことである。

昭和37年から会の開設までの11年間は坪井氏を核として橋浦紀夫氏、今枝 徹氏、演者を含め4人の出会いがあり、年一度の矯正歯科学会開催時に集まることを常としていた。

設立の契機となったのは上記4名が第32回日本矯正歯科学会の節「矯正歯科技工士の会」設立の要項作成のための会合を持ったことに始まる。現在会員数は85名(法人会員8団体8名含)で、平成30年6月16・17日の両日に第44回の学術研修会を迎えることになる。

今回、我が国における最初の矯正技工専門の歯科技工士誕生にまつわる内容と、日本矯正歯科技工研究会のこれまでの経緯をたどりながら、時代の流れと共に製作した矯正装置についても触れてみたい。

略 歴

略歴:

岐阜県飛騨市神岡町に生まれる

1964年 東京医科歯科大学歯科技工士学校本科
及び実習科卒業

同年~愛知学院大学歯学部附属病院歯科
技工部(矯正技工担当;2002年まで)

現在:

日本歯科技工士会生涯研修認定講師

東海歯科医療専門学校(矯正歯科技工学主任講師)

日本矯正歯科技工研究会 顧問

日本口腔顎顔面技工研究会 評議員

所属学会:

日本矯正歯科学会、日本成人矯正歯科学会、近畿

東海矯正歯科学会、日本全身咬合学会(認定士50号)

日本歯科技工学会(選挙管理委員)